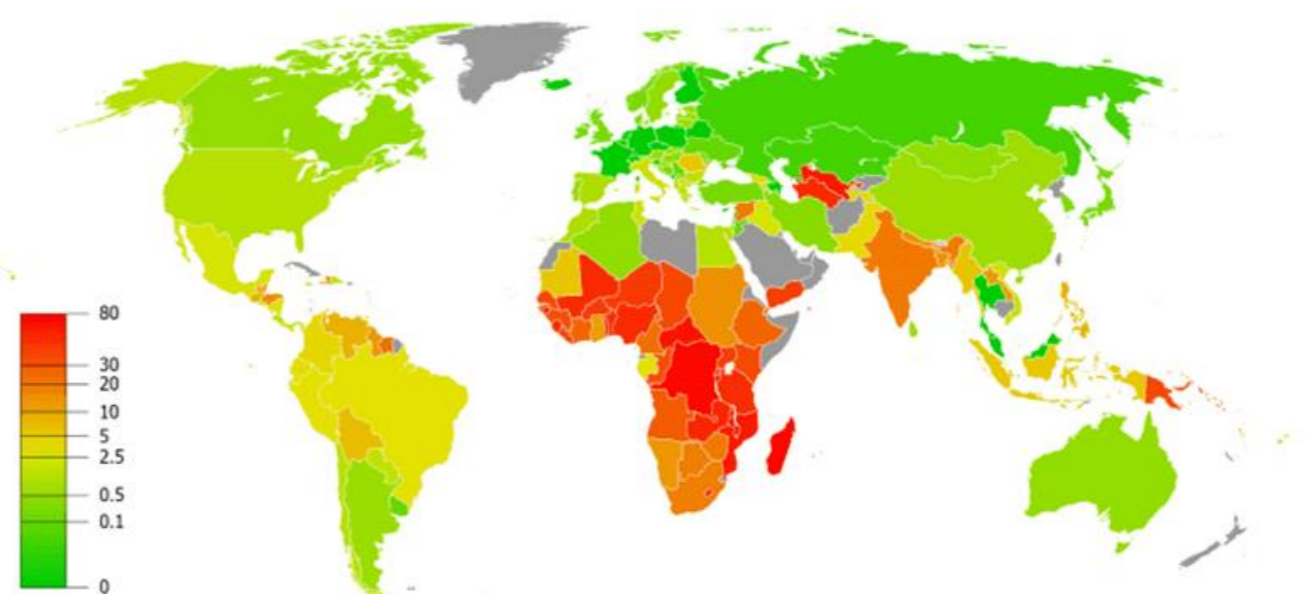


| | | | |
|------|-----------------------------------|----|-------|
| タイトル | 世界の貧困問題 —SDG s の取り組みによる解決は可能か— | | |
| 所属 | 南山大学 張ゼミ | 氏名 | 谷口 汐紀 |

〈背景〉

- ・ 世界銀行が示す貧困の定義とは日1.9ドル以下で生活している人を指す。
- ・ 貧困の連鎖から抜け出せないという現状がある。
- ・ 持続可能な開発目標（SDGs）の取り組み(17のゴールの内1番初めに挙げられる社会問題)で注目されるべき課題である。



一日1.9ドル以下で生活する人口の割合(暖色ほど貧困率が高い単位%) 2015年統計

〈SDGsの取り組み〉

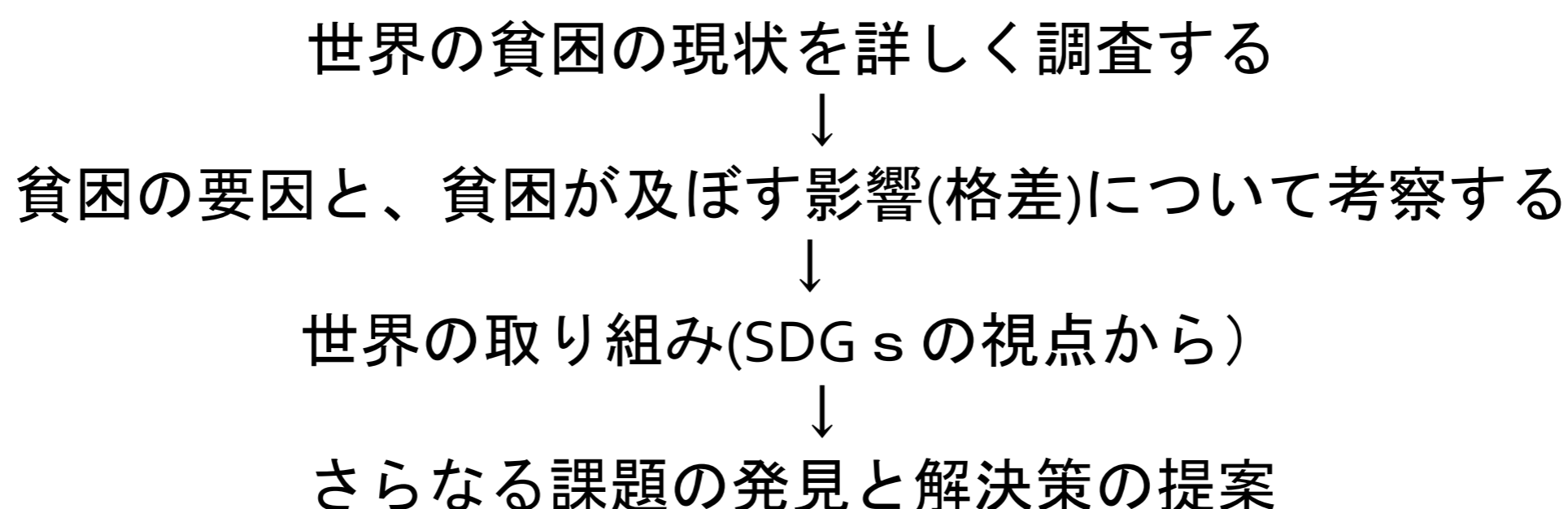
- ・ 2030年までに極度の貧困の人々を終わらせる予定である。
- ・ 貧困をなくすための施策として、「社会的保護の整備」「基礎的サービスへの平等なアクセス権」「強靱性を構築し、暴露・脆弱性を軽減」の3つがある。



〈研究目的〉

- ・ アフリカを中心に貧困の現状について把握した上で問題点を考察する。
- ・ 持続可能な開発目標（SDGs）の取り組みが貧困問題解決に対して、どのように機能しているかを考えることで今後の問題点を考察できるようにする。

〈今後の展開〉



〈参考文献〉

勝俣誠著「娘と話す世界の貧困と格差って何？」現代企画室，2016年